

科目名	文学特論 I Literature I			担当教員	長原しのぶ (ME, EC) 坂本 具償 (MS, CV)		
学年	4年	学期	後期	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	16120038	単位区分	学修単位
学習目標	<p>1. 種類の文学作品を深く読むことで、読解力を養い、また作者の独特な感性やさまざまな物の見方を学ぶことで現在を生きる自分の生き方を見つめ直すことができる。</p> <p>2. 作品の主題や論旨に対して自分の意見を口頭で発表したり、文章にまとめたりすることができる。</p> <p>3. 敬語の演習を通して、社会生活に必要な正しい敬語の使い方を身につけることができる。</p>						
進め方	講義形式を基本とするが、意見を書いたり発表したりしてもらうこともある。小テストも随時実施する。また、敬語演習は、講義と演習とを平行して実施する。予習・復習に努め、必要に応じて辞書も活用してほしい。また、本科目は学修単位科目であるため、自学自習時間に相当する課題を出す。本科目の授業の開始は後期であるが、夏休み中の課題も出すこととし、自学自習時間の課題の一部とする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	※全体ガイダンス(1) 1. 現代文(13) (1) 「徒然草」(小林秀雄) (4) (2) 「黄金風景」(太宰治) (4) (3) 「自分の死を見届けるために」(橋爪大三郎) (5)			・ 近代の文学作品を読み、表現の意図を把握し、主題を導き出すことができる。また、それに対して自分の意見や感想をまとめることができる。 ・ 評論文を読み、論旨を捉えることができる。また、それに対して自分の意見や感想をまとめることができる。 (A-1)			
	[後期中間試験] (2)						
	※試験の解説(1) 2. 敬語演習(6) 3. 評論 (7) (1) 「おんなの鬼」(馬場あき子) 「羊どろぼうの話」(加藤周一)			・ 敬語の使い方の基本的事項を身につけて実際に使うことができる。 (D-1) ・ 評論文を読み、論旨を捉えることができる。また、それに対して自分の意見や感想をまとめることができる。 (A-1)			
	後期末試験						
	試験返却(1)						
評価方法	<p>1. 評価の内訳：自学自習については課題の提出によって確認する。それも含めて提出物を30%、定期試験を70%として評価する。</p> <p>2. 評点：学習内容の1, 2~3をそれぞれ50%としてつける。</p> <p>3. 授業に対する取り組みが悪い者については減点することがある。</p>						
履修要件	特になし						
関連科目	国語Ⅰ (1年) → 国語Ⅱ (2年) → 国語Ⅲ (3年) → 文学特論Ⅰ (4年) → 文学作品購読 (専攻科2年)						
教材	教科書：プリント 辞書：国語辞典 古語辞典 漢和辞典						
備考	・ 本科目の単位は高等専門学校設置基準第17条4項により認定される。1単位当たり45時間の学修により単位認定を行う。 ・ 再試験、単位追認試験は適宜実施する。 ・ オフィスアワーは月曜日放課後とする。						